

## 第3回協働推進委員会記録

日時	令和3年3月18日（金） 18:30～21:00
会場	市役所新館1階会議室4
出席者	委員：青山孝司、小池田忠、都築晃、成田正、根尾文彦、三矢勝司、安井昌代、松下正夫 （以上8名） 豊明市：市民協働課長、協働推進担当係長

### 議 事

#### 1 前回のふりかえり

○事務局より会議記録に基づき説明。

#### 2 報告事項

市内中間支援組織NPO法人創 Seeds の取組み（案）

○安井委員より中間支援組織の令和3年度の活動計画を説明。また、令和2年度の実績として、市民活動団体の活動を市民へ広く周知するための「プラスくらんぶる祭」をライブ配信にて行い、その動画を市民交流センターのHPに掲載する旨の説明があった。

#### <質疑応答・意見>

- ・動画編集が得意な方がいることは強みになる。市民が求めている感覚である。
- ・インターネット上で「豊明市民交流センター」と検索してもHPがない。  
→検索条件を修正し、市HPからのリンクについても検討する。
- ・障がいがあっても少し介護が必要な方でも市民活動に参画できるという視点も必要。  
→5年前に策定した協働推進計画には「誰一人取り残さない」「SDGs」等の視点がなかったため、社会情勢が変化に伴い中間見直しに反映させる。
- ・学校法人の役割として、地域貢献活動が求められている。教育機関の学生と連携できるとよい。

#### 3 協議事項

第2次協働推進計画の中間見直しについて

##### (1) 中間見直しスケジュール（資料3-1、3-2）

○事務局より説明。

##### (2) 市民意識調査（資料4-1、4-2）

○事務局より説明。

#### <質疑応答・意見>

- ・市民や地域団体にはアンケート調査、市民活動団体にはヒアリング調査とした場合、目的が変わってくるため、どちらもアンケート調査にするべき。

- ・市民活動団体アンケートは、計画策定後の新規登録団体に絞ってもよいのでは。5年前と比べて市民活動の意識の変化がわかるかもしれない。
- ・年代別、活動年数と市民活動の分野ごとに抽出し、クロス集計をする方法もよい。
- ・市民意識調査は、項目が多いので、中間見直しに必要な項目を絞ってもよい。
- ・地域団体の調査方法は区長連合会にて調査する方法でよい。
- ・コロナ禍での市民活動方法を調査項目に入れるとよい。

→委員の意見を集約しアンケート方法及び内容を調整する。案ができ次第、再度ご意見をいただく。

### (3) 基本施策の中間見直し（資料 5-1, 5-2）

○事務局より説明。

<質疑応答・意見>

○全体

- ・新旧対照表での表示方法ではなく、エビデンスと結果を示し、誰に何を示したいのかを明確にするべき。分類表等で見せ方を検討し、できるだけ説明がなくてもわかる資料を作成してほしい。

○先行事例学習（No. 1～4）

- ・市民が地域団体や市民活動団体等の取り組みや、まちづくりの分野別の取り組みに触れるきっかけづくりが必要である。また団体同士が理解しあう場を作ることも大切である。

○中間支援（No. 18～20）

- ・「中間支援機能の場づくり」では、市民交流センターが設置されたが、今後多世代交流館（仮称）に移転した後も、中間支援機能としての効果が生まれやすい場づくりは継続して実施していくとよい。
- ・協働コーディネーターの人材の発掘と育成に関しては、各分野別に地域資源（人材や活動など）の把握と調整役を担うコーディネーターが活躍している場合がある。ネットワーク系の役割としてではなく、オペレーターとしての役割を担っていくのがよいのでは。  
→各分野を横断し、各分野別コーディネーターと連携ができるような、オペレーターとしての役割を担えるよう育成していけるとよい。
- ・英国等では、市民活動の審査機関があり、活動プロセスと実績等を分析し可視化することで、信頼される団体となり、市民が寄付するための基準となっている。こうした活動も豊明の市民活動支援に参考にしてほしい。
- ・会計や法律関係が弱い団体がある。評価しながらコーディネートもできるとよい。
- ・NPO活動支援CANPAN【Can（できる）Panacea（万能薬）】に団体が活動実績を登録することで、いろいろなNPO支援メニューが使える。

### (4) 協働ラベリング調査（資料 6）

○事務局より説明。

- ・協働には3つのタイプがある。【①目的が同じで手段も同じ】【②目的が違うが手段が同じ】【③目的が同じだが手段が違う】また、協働レベルが例えば「4」の中でも好事例がある。これまでの協働ラベリング調査を活かし、レベルごとにタイプ別の好事例を知ることによって協働レベルでの底上げを図る。

< 質疑応答・意見 >

- ・調査対象事業の絞り込みをするのか。  
→まずは、協働レベル2・3・4から好事例を調査する。その後1及び5でも好事例があればヒアリングをしていく。
- ・好事例を紹介することによって、他課がやってみるといったことは良い方法である。

#### 4 その他

次回は、令和3年度の新規委員にて6月に開催予定。